

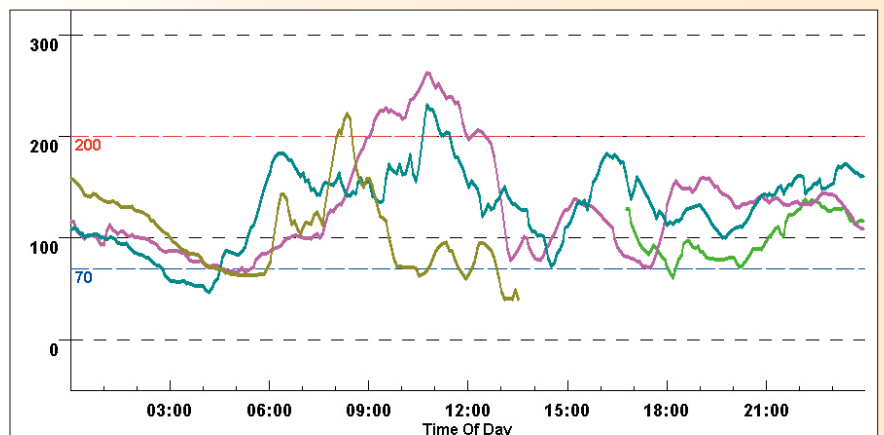
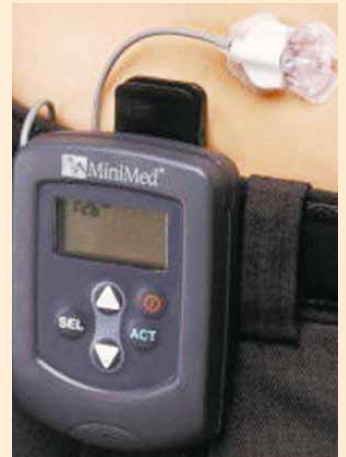
持続血糖測定 (CGM) システム：血糖管理の強力なツール

糖尿病内分泌内科 大塚 章人

持続血糖測定システム (Continuous Glucose Monitoring System, CGMS) では、皮下に留置するセンサーにグルコース酸化酵素が組み込まれており、グルコースが酸化される際に発生する過酸化水素が水と酸素に分解される際に生じる電流が測定されます。皮下組織間質液中のグルコース濃度は連続測定され、右の図のようなセンサーに接続された携帯型のモニタに5分ごとの平均値が記録され血糖値が算出されます (1日288回)。1つのセンサーで3日間連続して測定できます。

このシステムを用いることで、血糖自己測定 (SMBG) の困難な時間帯や就寝後の血糖変化を記録することができます。それにより、糖尿病患者さん個々の詳細な血糖プロフィールが分かり、また、食後の高血糖、夜間の低血糖、無自覚性低血糖の有無、早朝に血糖値が上昇する「暁現象」など、SMBGでは知ることができない血糖変動を検知することができます。この手がかりがあれば、血糖コントロールを阻害する原因をつきとめることができ、また、経口血糖降下薬やインスリンを、高血糖や低血糖を防ぐべく、きめ細かく調節できるようになります。

下の図はある1型糖尿病患者さんの3日間の血糖プロフィールです。当院では本年4月に当システムを導入し、7月末までに10例以上の患者さんにCGMを実施しました。この経験を踏まえ、CGM実施を主な目的としたCGM入院を始めました。CGM入院の入院期間は1週間で、入院期間中に72時間のCGMを行い、血糖プロフィールの評価とそれに対する薬剤量の調節を行います。また、併せて、通常の1週間の糖尿病教育入院のスケジュールに従い、糖尿病教室への参加、糖尿病パスを用いた合併症関連の検査などを行います。CGM入院の良い適応は、①1型糖尿病で血糖変動の激しい方、②夜間低血糖を起こしている可能性のある方 (腎不全症例など)、③低血糖のため薬剤を増量できず血糖コントロール不良が続いている方、などです。血糖コントロールにお困りの症例 (特にインスリン使用例) があればCGM入院をご利用ください。



CGM入院の申込方法

CGM入院を希望される患者様の紹介状を地域医療連携室までFAXにてお送りください。後ほどこちらから詳細をご連絡申し上げます。

● 地域医療連携室

電話 078-511-3133 / FAX 078-511-3297

たばこ
増税の
前に

禁煙外来をご活用ください

禁煙外来のご案内

禁煙にチャレンジしたい方、
医師より禁煙をすすめられている方は、
一度禁煙外来を受診してみませんか！

外来日：木曜日 午後2時～
場所：内科外来
担当医：中村副院長
久保医師
基本スケジュール
12週間で5回の禁煙治療を行います。

詳しくは内科外来窓口にお尋ね下さい。

川崎病院 禁煙外来

当院では毎週木曜の午後に中村副院長と久保医師が禁煙外来を行なっています。(第1.3.5木曜：中村副院長 / 第2.4木曜：久保医師) これまで、禁煙補助剤として、ニコチンパッチが用いられてきましたが、貼り付けた場所のかぶれがひどく、使用できない人がありました。この問題を解決する薬(バレニクリン)が、平成20年4月から使用できるようになりました。バレニクリンは、飲み薬で、服薬すると、脳にあるニコチン受容体に作用して、ニコチン禁断症状を緩和します。同時に、喫煙によって得られる満足感が抑えられるので、バレニクリンを服薬中に喫煙しても、たばこがまずくなるという効果もあります。バレニクリンはニコチンパッチよりも禁煙成功率が高く、急性期の脳心血管障害の方にも使えますので、当院の禁煙外来でも使用例が増えていきます。これまで禁煙を希望されていても、なかなか成功出来なかった方は、是非、禁煙外来にご相談ください。費用は3割負担の方で14,000円程度です。(過去1年以内に禁煙治療を受けたことがある方や、入院中の方には、保険診療が出来ませんので、ご承知ください。)

ご予約は地域医療連携室に紹介状をFAXにてお送り下さい。

カプセル内視鏡による検査を行なっています！

当院では昨年4月よりカプセル内視鏡による、小腸検査を行なっております。

このカプセル内視鏡は内部に小型カメラや照明を内蔵し、消化管の蠕動運動によって移動しながら、約8時間かけて数万枚もの小腸内部を撮影し、患者様に装着された受信装置にすべて記録したうえで、そのデータを専用コンピュータに送り、医師が診断します。

費用は、3割の方で3万円程度のご負担となります。ただ**カプセル内視鏡は事前に、胃カメラなどの上部消化管検査と大腸内視鏡などの下部消化管検査を実施したうえで、それでも原因不明の出血に対してのみ保険の適用となります。**

検査の副作用は殆どありませんが、極まれにカプセルが内部に留まってしまふ“停留”もあることから、2週間以上たってもカプセルが出ない場合にはレントゲンなどでカプセルの有無を確認させていただく場合がございます。

検査の流れ

- 検査前日の夜は食事をしてから絶食。飲水は当日の直前まで可能(状況により下剤等の服用もあり)
- 検査当日の朝、内視鏡にて受信装置を装着して頂き、カプセル内視鏡を飲み込みます。飲水は直後から可能。食事数時間後から可能です。
- 胃を通過し十二指腸に入るまでモニターします。1時間以上、胃に留まっている場合はお薬の投与、もしくは胃カメラでカプセルを十二指腸まで運ぶ場合もあります。

- その後の患者様は自由行動。夕方、当院内視鏡室にお戻り頂き受信装置をはずして検査終了。
- カプセルは使い捨てですが、便を取る回収キットがありますので、(内視鏡室で当日渡し)カプセルが体外に出たことを確認していただきます。
- 1日~1週間で検査結果がでます。

当院では、**小腸内視鏡**も備えており、カプセル内視鏡で見つかった病変に対し、出血の止血やポリープの切除もおこなえますので、診断から治療までの一貫した診療体制が可能となりました。

※ **カプセル内視鏡を行うには、まず当院消化器科の受診が必要ですので、ご了承下さい。**
(消化器科の受診予約は地域医療連携室まで)

痔のALTA療法をおこなっています。

当院では痔のALTA療法をおこなっております。注射で治療するという画期的な方法であるため、少しずつ皆様にも知られるようになり、治療いただいている方も増えております。特に「第3度」の内痔核や従来は手術による治療が行われていた「第4度」の内痔核に適用します。

痔でお悩みの皆様には、まず火曜日の午後に行っている肛門外来を受診して頂いております。ご予約は地域医療連携室へのお電話かFAXにてお申し込み下さい。



● 地域医療連携室 電話 078-511-3133 / FAX 078-511-3297